

「家庭基礎」学習指導案

崇徳学園 崇徳高等学校
指導教諭 鴨谷 祐子

本学習指導案のポイント（中村 誉子 指導主事）

- 学んだ内容を踏まえて、自らの考えを明確にして表現し、他者からの評価を得て振り返る場面を設定しており、このことが、自らの考えを深めたり広げたりすることに有効であった。
- 単元を通してデジタル機器を有効に活用して学習が進められており、災害時の食事からそれぞれの生活の状況に合わせて備えや対策を考えることにまで視野が広がっていた。

- 1 実施日 令和6年10月11日（金）6限：13時55分～14時40分（45分）
- 2 学年・学級 1学年6組（34名）
- 3 単元名 「災害時の食事」
- 4 単元について

（1）単元観

近年日本では災害が頻発しており、ひとたび災害が起こると、ライフラインの遮断など衣食住への支障が発生する。特に「食」については、生命や健康にかかわるため、普段から万全な準備を行う必要がある。そこで、日本で起こり得る災害の特徴や被害の状況を学び、「災害時の食事」作りを通して、非常事態でも生き抜くための知識や技能を習得するとともに、家庭や地域において課題を発見し、解決する力を身につけ、いかなる災害時にも活躍できる人材を育成することを目標として題材を設定した。なお、本単元は、高等学校学習指導要領家庭基礎「B衣食住の生活の自立と設計」を踏まえている。

（2）生徒観

事前アンケートによると、「あなたは、自然災害に対して不安を感じていますか？」という問いに対し、34名中4名が「とても不安に感じている」、21名が「やや不安を感じている」と半数以上の生徒が不安を感じていると答えている。しかし、「自宅で防災・減災対策に取り組んでいることはありますか？」という問いに対し、12名は取り組んでいると答えたが、その他は「わからない」「取り組んでいない」と回答している。その理由として、「必要だとは思いますが面倒」が13名、「何から対策すればよいかわからない」が5名、「本当に必要なかわからない」が3名、「備えがなくとも何とかできる」が1名という結果となった。また、防災・減災対策を行っている12名のうち、「食糧と水」の両方を備蓄しているという回答はわずか3名だった。問題意識はあるものの、災害は起こらない、自分は大丈夫と考えている家庭が多いことや、対策も万全でない家庭が多いことから、高校生が家庭の一員として課題を発見し、防災・減災対策を考え、災害時にも家族や周囲の人を助け、生涯にわたって生活の主体として自立し、かつ人と協働して共に生きる力を身につける機会となるようにしたい。

（3）指導観

前述のように、自宅でどのような防災・減災対策をすればよいかわからないと回答している生徒が多いことから、日本で起こり得る災害の特徴や被害の状況を押さえた後、「防災カードゲーム シャッフル+」（幻冬舎エデュケーション）を用いて、災害から命を守るための知識や日頃の備えを自らの問題としてアクティブに考えながら学習させたい。また調理実習では、ライフラインが遮断されているという想定で、限られた水と調理器具と食材を用いて、災害時の食事作りを行い、普段とは異なる環境下でどのように工夫することが出来るかについて考えさせ、災害時の食の備えの重要性についての意識も高めさせたい。その後、授業で学んだことを各家庭で共有・実践し、日頃から防災意識を高める機会を作り、「食」の面で高校生が生涯にわたって家庭の一員として主体的に防災・減災対策を行うことで、災害時に活躍できる実践的な態度を養うようにする。

5 単元の目標

- （1）「災害時の食事」の基本的な知識について理解するとともに、目的に応じた調理技能を身につける。
- （2）「災害時の食事」について家庭での問題を見出し、どのような備えや対策が必要か課題を設定し主体的に考え、工夫し、各家庭の状況に合わせた対策を構想することで、課題を解決する力を養うとともに、考察したことを論理的に表現する力を身につける。
- （3）学習内容を家庭で共有し、生涯にわたって家庭の一員として災害時の食の備えを見直そうとするとともに、防災・減災のために協働して主体的に取り組もうとする態度を養う。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「災害時の食事」の基本的な知識について理解するとともに、目的に応じた調理技能を身につけている。	「災害時の食事」について家庭での問題を見出し、どのような備えや対策が必要か課題を設定し主体的に考え、工夫し、各家庭の状況に合わせた対策を構想することで、課題を解決する力を身につけるとともに、考察したことを論理的に表現している。	学習内容を家庭で共有し、生涯にわたって家庭の一員として災害時の食の備えを見直そうとするとともに、防災・減災のために協働して主体的に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画（全6時間）

次	学習内容（時数）	評価				
		知	思	態	評価規準	評価方法
1	・日本の自然災害、災害時の食の課題 ・防災カードゲーム（非常時には様々な対応策） ・宿題の連絡（備品チェック、非常時の調理法について）【2時間】	○	◎		・日本の自然災害のリスクの高さについて理解している。 ・災害時の食の課題について理解している。【知】 *災害時の食について家庭での問題を見出し、どのような備えや対策が必要か課題を設定している。【思】	・ワークシート *定期考査 ・振り返りシート
2	・災害時を想定した調理実習（炊飯+副菜） ・実習の振り返り、各家庭の問題点や解決策を考えまとめる。【3時間】	○	◎	○	・ライフラインの遮断という非常時を想定した調理を工夫して行い、主体的に取り組んでいる。【知・態】 *実習を通して、食品を備蓄することの重要性について、考察したことを論理的に表現することができている。【思】	・ワークシート *振り返りシート ・宿題 *発表用スライド

3	・授業内容を各家庭で共有し、災害時の備えについてまとめて発表する。 【1時間】（本時）	◎	○	＊各家庭の「食事」に関する防災・減災対策をまとめて、他者に分かりやすく発表することができている。【思】 ・学習内容を家庭で共有し、災害時の食の備えを見直そうとするとともに、防災・減災のために家庭と協働して主体的に取り組もうとしている。【態】	＊発表用スライド ＊振り返りシート
---	--	---	---	---	----------------------

※◎は、重点的に生徒の学習状況を見取る観点、＊は、記録に残す評価

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・家庭の一員として、各家庭の状況に合わせてどのような備えや対策が必要かを主体的に考え、考察したことを論理的に表現する力を身につける。

【思考・判断・表現】

- ・「食事」に関する防災・減災対策についての充実向上を図るために、家庭と協働して主体的に実践する態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 観点別評価規準

- ・家庭の一員として、各家庭の状況に合わせてどのような備えや対策が必要かを主体的に考え、考察したことを論理的に表現する力を身につけている。

【思考・判断・表現】

- ・「食事」に関する防災・減災対策についての充実向上を図るために、家庭と協働して主体的に実践しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 準備物

教科書「Survive!!高等学校家庭基礎」（教育図書）、資料集「生活学Navi」（実教出版、各自タブレット、ワークシート、プロジェクター

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て	評価場面 （評価方法） 【評価の観点】
導入 5分	1. 前時のふりかえり（調理実習の様子） 本時の目標を確認する。 <目標>「各家庭での防災・減災対策を他者に分かりやすく表現する。また、他者の取り組みを聞くことで、さらに自分の対策についてブラッシュアップをやる。」	・前時の課題について、各自で作成した発表用スライドをもとに、本時はグループ内で発表することを伝える。（発表者・聴き手の評価の観点を確認する。）	
展開 30分	2. グループ内（4～5人）での発表 ファシリテータを決め、全員で発表させる。（1人3分程度） 他人の発表をしている時は、評価表で評価をしながら聞く。評価基準は、3点が標準であることを伝える。 3. 全体共有 相互評価の高め（または余裕補）生徒2人を選出し、全体共有する。	・グループ内で各家庭における対策を発表し、他者の意見にも耳を傾け相互評価を行うことで、自分の対策をより良いものにするのを意識させる。 ◆発表前に、評価の基準を再度確認することで、効果的な発表となるようサポートする。	・家庭の一員として、各家庭の状況に合わせてどのような備えや対策が必要かを主体的に考え、考察したことを論理的に表現する力を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・（発表用スライド）【思考・判断・表現】
	<発表内容> ①授業を受ける前の、家庭における「食事」に関する防災・減災対策（現状と課題）について ②授業を通して家庭で実践した「食事」に関する防災・減災対策について ③今後起こり得る災害に対して、家族の一員としてどのような防災・減災対策ができるか <評価内容> ①家庭における「食事」に関する防災・減災対策の現状を分かりやすくまとめている。 ②家庭における「食事」に関する防災・減災対策の課題を分かりやすくまとめている。 ③家庭における「食事」に関する防災・減災対策の現状と課題を分析し、授業で家庭と協働して主体的に実践することができている。 ④今後起こり得る災害に対して、家庭と協働して何ができるかを分かりやすくまとめている。		
終結 10分	4. まとめ 各自の発表を聞いて、考えたことや自分の取り組みにおける改善点などを、振り返りシートにまとめる。 2～3人の意見を全体共有する。	・授業を通して、防災・減災に対する意識がどのように変化したか、また、生涯にわたり家庭の一員としての自覚を持つことの必要性をどのように感じたかを振り返り、まとめさせる。	「食事」に関する防災・減災対策についての充実向上を図るために、家庭と協働して主体的に実践しようとしている。 ・（振り返りシート） 【主体的に学習に取り組む態度】

(5) 判断基準

評価	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A（十分満足できる）	家庭の一員として、各家庭の状況に合わせてどのような備えや対策が必要かを主体的に考え、考察したことを複数の観点から論理的に表現している。	「食事」に関する防災・減災対策についての充実向上を図るために、家庭や地域と生涯にわたって協働して主体的に実践しようとしている。
B（おおむね満足）	家庭の一員として、各家庭の状況に合わせてどのような備えや対策が必要かを主体的に考え、考察したことを論理的に表現している。	「食事」に関する防災・減災対策についての充実向上を図るために、家庭と協働して主体的に実践しようとしている。
C（努力を要する）	家庭の一員として、各家庭の状況に合わせてどのような備えや対策が必要かを主体的に考え、考察したことを論理的に表現していない。	「食事」に関する防災・減災対策についての充実向上を図るために、家庭と協働して主体的に実践しようとしていない。